

一〇一六年五月六日

風の意に従ひ芽吹く柳かな
里山の起伏野を染む芝桜
夕凪や泳ぎ疲れし鯉のぼり
小つむじに高舞ひ落花田に道に
卯浪立つ沖よりとどく汽笛かな
薰風に手足伸ばして体操す
濠の水染むるばかりに落椿

ともえ
三刀
とううち
泰山
智恵子
満天
泰山
智恵子
泰山
智恵子
泰山

頂きし新筍の産毛撫づ
十哲の墓石を数ふ青葉影
慈悲塔のしどねのごとく花すみれ
群鳩を翔たせし空は聖五月
一〇一六年五月一日

なつき
ぽんこ
菜々
ぽんこ
ひかり
こすもす

一〇一六年五月五日

山吹や岩にしぶきて谷の水
雨晴れていよよ眩しき山若葉
序破急の潮騒のごと青嵐

とううち
せいじ
よう子

風よ吹け園児の仰ぐ鯉のぼり
外濠に沿ひてジヨギング風薰る
直立の托鉢僧に風薰る

ぽんこ
ひかり
こすもす

一〇一六年五月一日

一〇一六年五月四日

釣り人の寛ぐ背なに若葉風
自家製の苺類ばる至福かな
丘の上や眼下の海に卯浪たつ
桐の花雨が洗ひし空ま青
切つ先をそつと押しやり菖蒲の湯

智恵子

お静かにてふ貼り紙や燕の巣
吟行子道後の旅の春惜しむ
わたしには格闘技なり布団干す
草刈機鳴りそめたる日曜日

たか子
明日香
よし女
さつき
なおこ

一〇一六年五月三日

夏の蝶急磴のぼりつめんとす

万縁を抽んでてをる丹の鳥居

卯波寄すテトラポットを鳴かせもし

さつき

とううち

宏虎

毎日句会みのる選・一〇一六年五月八日